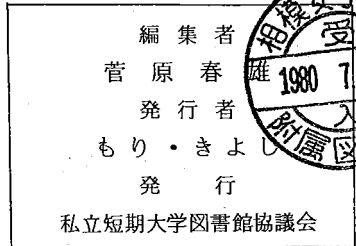


Bulletin of Junior College Library Association



1978. 7 No. 2

「近頃思うこと」

川崎 文策

近代日本の図書館の幕開け以来、私たちの先達である図書館員の方々は司書職制への確立もふくめて、図書館は如何にあるべきかを模索し道を求め拓きやって来た。

図書館外部の無理解や干渉に時には堪え時には訴えながら、内では試行錯誤をくりかえしながら如何にあるべきかをさぐって来た。

その図書館の道がときには整理論であり、サービス論であり、書誌論となって主張や論点をはって来た。

ああでもないこうでもないというジグザグ論そして多くの実験は、図書館界の今にいたる苦悩を物語っているといえる。

しかし今だに結論は出ないし、図書館のおかれている立場は依然としてきびしい。

現代の図書館 1978年3月号によると、公共図書館の現状にふれ「図書館はやりすぎた、もうこの辺でいいだろう」という考えは、地方財政危機と一体になって出て来た行政内部の考えで、この考えの具体的な現れは東京都における市町村立図書館補助の打ち切りであった¹⁾という。

「図書館はもういい」という考え方には二通りの意味があって「うちの市(県)の図書館の条件はいい方だ」という考えと「他の部局に比べて図書館はやりすぎだ」という考えがあるようだ。行政にとって条件の基準とか、図書館のもつサービスの意味は理解されがたい。この二通りの意味は短大図書館にもあてはまる。物価高に比較して図書館予算は楽観をゆるさない。又、やりたいことを色々持ち出せばやりすぎだとも言われよう。

学生数五百人~千人ならば正規の館員数は3人~5人は必要である。

それなくしてはゆとりある仕事、愛される図書館にはなりにくい。現実には1人~3人である。これらの根底にあるのは財政の問題である。だから問題解決は、限りある学校財政の中でとやかく言うのは無理で、文部省あ

たりへ図書館特別補助をお願いする方向へもっていくのが妥当であろう。

岩猿敏生氏はL I S Nに『図書館界の展望』として次のように書いておられる。要約すると、西欧の図書館員は書誌的教養が要求されているが、日本ではまず利用者へのサービスが第一だというサービス哲学が館界の大勢を占めたのか館員の書誌学的知識の弱さは気にかかる、図書館界の書誌学の復興を期待する²⁾と…

サービスについては道徳的、人生哲学的には奉仕の価値は高く尊いとされている。

しかし、その“力”となると疑問である。或る行政の力は永年の奉仕者を思うように手のうちにまらめてしまう。

ある人の体験からして、三年間サービス本位の図書館運営を一生懸命やってみたところ、利用者がかなりふえてきたにもかかわらず、当局はその労を認めるのではなく、最近利用者が多いが、それならばもっと開館時間を延長するようにと、かえって館員に負担を背負いこませる方へ話もっていかれる仕末であった、と…

以上のことから次に述べる理由からも、小生はこれからは書誌的な面をもっと館員は身につける方向でありたいと申し上げたい。

浅野次郎『1988年の大学図書館』によると、「機械化により図書館員は単純労働から解放され、専門職らしい仕事につき研修の機会も与えられる。すなわち、不馴れな利用者のために検索方法の媒介をしたり、文献探索法をはじめ図書館利用法を指導したりすることにより利用者から評価され、70年代の懸案であった専門職制が確立するのではないか。」³⁾

即ち、利用者(学生)への図書利用の仲介者(外国ではlibrary officerともいう)又、図書館(学)教育への導入者、又、情報化社会でのソフトウェアの価値のうえから、また情報提供者としての役割からして、館員の書誌的研究が今後の課題となるであろう。

新しい時代を迎えるにあたって、私たちはそれなりの覚悟と努力が必要であろう。

図書館界に新しい希望の芽が見い出せるのではないかという気がいたしますが…

このことについては紙面がつかますので今詳しく書けません、機会があれば又、小生の考えを述べさせていただきますと思います。

諸先輩方からもお教えてください。

参照文献

- 1) 前川恒雄『公共図書館—状況を超えるもの』現代の図書館 JLA 1978・3月 P.19
- 2) 岩猿敏生『図書館界の展望』LISN 木原正三堂 1978・4月 P.2
- 3) 浅野次郎『1988年の大学図書館』図書館雑誌 JLA 1978・4月 P.178

(鈴峯女子短大)

< 全国理事会議事録 >

日時：昭和53年5月25日 午後1時～5時

場所：日本図書館協会資料室

I. 会長挨拶

II. 報告事項

1. 事務局報告（安部常任理事）

- 加盟校数
- 在京役員会の動き
- 本協議会53年度総会
- JLA各支部・委員会への幹事・委員の派遣
- 広報活動
- 関係諸団体との交流

2. 会報報告（菅原理事）

3. 研究活動報告（芝原理事）

全国会員校名簿の作成を計画中。

4. 会計報告（安部常任理事）

中間報告として5月20日現在の収支を報告。

5. 各地区報告

- 北海道地区（坂本理事）
- 東北地区（宮城理事書簡）
- 関東地区（片山理事）
- 中部地区（梶田理事代理：林氏）
- 近畿地区（前川理事）
- 中国・四国地区（川崎理事書簡）
- 九州地区（村上理事代理：安部常任理事）

III. 協議事項

1. 規約の一部改正について

事務局原案の一部字句を修正し、総会に議案として提出することを了承。但し、会費値上げについては9月迄検討期間をおく。

2. 理事の補充・追認について

○宮城理事（東北地区）の後任については東北地区協議会に一任する。

○岡野前理事の後任は網本正己幹事に委嘱。総会で承認を受けることとする。

3. 地区活動費について

昭和53年度より地区活動費（加盟校1校当り1,000円）を交付する。

4. 総会の運営について

○開催日時・会場は、10月13日午後1時～5時迄、青森県火災共済会館を予定。

○前半を「NDC8版の主な改正点について」の講演と討議、後半を総会にあてる計画。

5. その他

○日短協の研修会がない年には本協議会による全国的規模の研修会を開催すること（九州地区提案）を検討、総会迄に原案をまとめることとする。

(司会：柴田監査)

< 地区協議会活動報告 >

○近畿地区

<第1回研修懇談会>

日時：昭和53年3月24日（金）午後1時～4時

会場：大谷女子短期大学図書館

出席人数：25名

概況：開会につづいて当番館の館長あいさつのあと、東京から本協議会常任理事安部豊巳氏を迎え講師として、「私立短大図書館協議会について」講演が行われた。

短大図書館協議会の目的・意義・現状・目標とする活動について述べられ、問題点として次のことが指摘された。①大学の中でも短大図書館が一番多くの問題をかかえている。良い図書館をつくるのが良い大学・良い教育をすることにつながる。②教室学習と図書館の二本立て教育の必要性、③他の館の活動を知ることはきわめて重要で、同規模同士が手を取り合い進歩してゆくことが

大切。④機関誌の発行・研究会・調査活動の重要性。⑤図書館の仕事はマンネリに陥りやすい傾向にある。やる気と根気といった情熱を持つことが良い図書館をつくる原動力となる。中味のある図書館作りが大切、さらに自館だけでなく他の館にも伝えてゆく姿勢が必要である。

講演のあと、各地区活動状況について報告された。

このあと懇談に入り、近畿地区の今後の運営について協議された。1) 研修懇談会は年3回開催し、担当は理事校(うち1回は見学研修を行うかもしれない)。2) 各校より問題点を提出してもらった。概要は以下の通り。
◎名簿の作成(蔵書冊数・予算・館員人数etc) ◎目録の作成について ◎学生の利用指導について ◎相互協力問題について ◎学生用図書の選書基準について ◎逐次刊行物、寄贈本の処理について ◎廃棄本の処理方法について ◎図書館の規模と館員の関係等。これらの中から理事校が問題点をピックアップし次回で検討する。

○関東地区

<第1回関東地区協議会>

日時：昭和53年3月28日 10:00-15:00

会場：日本図書館協会 6階会議室

概要：文教大学女子短大菅原氏の司会進行で進められ、関東地区協議会理事片山氏の代行として本協議会長もり・きよし氏のあいさつ並びに講師の丸山氏の紹介が行われた。



続いて国会図書館員・JLA目録委員の丸山昭二郎氏の「日本目録規則新版・予備版について」講演が行われ、NCR新版の成立を歴史的経緯に沿って述べられた後、主な改正点を個々の事項について解説され、国立国会図書館に於ける適用を例として種々の技術的問題にも触れながら、今後の方向を示して講演を結ばれた。丸山氏の講演に引続いて質疑応答が行われて午前の講演会を終了。昼食休憩の後、午前1時より第1回関東地区協議会が行われた。

○関東地区協議会(第1回)

I 報告 安部常任理事(東京女子大短大)

1) 私立短図協設立の趣旨と経過

2) 現況—加盟校121校(尚全国短大総数424のうち4年制を併設しない短大のみが321校)

○関東地区加盟校 40校(短大総数143・短大のみ99校)

3) 活動状況及び計画

○会報発行(第1号既刊・2号53・6月—JLA総会後—予定)

○研究活動(地区単位の研修会を中心にテーマを設定して意見を交換する。又併せて資料の交換も考える。)

○評価による図書館の改善(図書館の評価基準を設け、これに従って図書館の改善を押し進める。その際、視察員の派遣も検討したい。)

4) 短図協の組織

○全国組織・総会(短図協全国理事会はJLA総会時、短図協総会はJLA全国大会時にそれぞれ開催する。)

○地方組織：全国を七地区に分け、関東地区理事校は国学院栃木短大

5) 各地区協議会活動状況(一部会報創刊号と重複)

○九州地区協議会 52. 11. 10開催

○東北地区協議会 52. 11. 12 "

○近畿地区協議会 53. 3. 24 "

尚近畿地区協議会より次のような要望が寄せられている。i) 会報の発行回数を増やしてもらいたい。ii) 在京役員会で協議された内容を早急に知らせてもらいたい。iii) 協議会の記録を他地区と交換したい。iv) 会費の一部を各地区の運営費として還元してもらいたい。また北海道、中部、中国・四国の三地区はまだ協議会を開催していない。

このあと質疑応答があり、続いて芝原(東洋英和女学院短大)杉山(フェリス女学院短大)両氏の司会により懇談会が行われた。まず各図書館の利用案内を回覧しながら実状報告及び意見の交換を行なった。その主なものは次の通りである。

○新潟短大(小栗氏)：実状報告(利用案内・オリエンテーションについて)

○東京女子大短大(渡辺氏)：実状報告(オリエンテーション・利用の手引・機関誌の発行等一連の図書館教育について)

○白鷺女子短大(諸星氏)、茨城キリスト教短大(大

畠氏)、関東学院女子短大(松木氏)、田中千代学園短大(香木氏)、和洋女子短大(高桑氏):いずれも研修会に期待を寄せ、今後とも各種の研修会が開催されることを希望している。

○白梅学園短大(石井氏):図書館の増・改築が見込まれるので他校から情報を得たい。

○昭和音楽短大(山田氏)、フェリス学院短大(杉山氏):音楽関係資料の整理について研修会を開いてもらいたい。

ここでもり・まさし氏から発言があり、館員が少数の短大が多い現状から研修会の時期を選ばねばならないこと、またNCR・NDCの問題に限らず、図書を選択、

研究室との関連、図書館の位置づけ(館員の身分確立)等といった管理面上の問題もあるから、テーマを決めて計画的に研修会を行なう必要があることの2点を指摘された。これを受けて芝原氏(司会)、もり氏を中心に差し当り今年の8月下旬乃至9月上旬に開催してはどうかということになったが、安部氏が事務局を代表して、アンケートによって研修会の開催回数・時期・テーマ等を調査する旨申し出られて懇談会を終えた。最後に安部氏の閉会のことばで会をとじた。

尚当日参加校は講演会(午前の部)が短協加盟校21校43名、非加盟校19校32名計40校75名であり、関東地区協議会(午後の部)が加盟・非加盟合わせて30校56名であった。

短大図書館めぐり 第2回

國學院大学栃木短期大学図書館

—相互協力のためのレジメ—

〔閲覧室〕

二つの閲覧室と155の椅子、オーディオ専用席と25の椅子を用意しています。他に分室1、貸出ポイント2を持ちフィクション、ノンフィクション、文庫本等を3000冊程度ずつ置いています。(これは完全なノーチェック制です)。

〔資料〕

- ①図書 約6万冊で、完全開架式です。書架のなるべく近くに机と椅子を、と考えて配置しています。
- ②マイクロ・フィルム 図書資料の不足を補う手段として採用しています。リーダー(3)、プリンター(1)
- ③オーディオ レコード(327) カセットテープ(388) 6チャンネル(同時6回路使えます)
- ④ビデオ・テープ3/4 カセットで550本所蔵しています。第二閲覧室奥に目録をおき、自由に見られます。
- ⑤スライド・フィルム 約100タイトル、必要に応じて新しく作製されています。

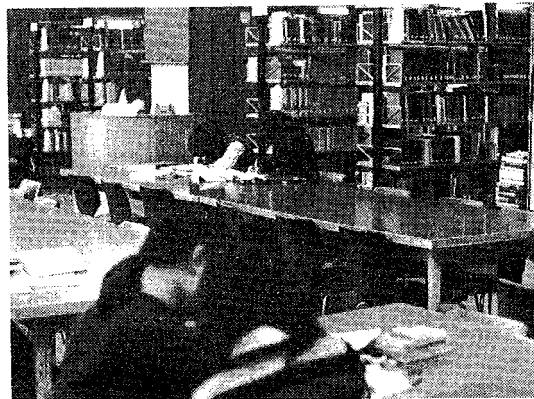
〔検索の手段〕

主目録は冊子体(加除自由)に編成しています。著者、書名、内容分出、主題名の五十音配列です。

紀要雑誌論文目録を用意しています。主題名と著者名で構成されています。

主題別の索引づくりを始めています。例えば近代日本文学作品索引とか、写真、図版索引等。

直接書架へ行く利用者のためには詳細な書架案内板があります。五十音配列で主題語を並べ、例えば夏目漱石とひけば104番の書架と判る仕組みになっています。



〔相互協力のために〕

現在の段階で短大図書館にとっての相互協力とは、資料の不備を補いあうことしかないと思います。所蔵文献の解題、あるいは目録編成という仕事を、館の仕事の大きな柱と考えています。「館報」(毎月刊)「図書館大道」(年刊)等で発表しています。

おこがましいようですが、次のことなら、参考調査、あるいはコピーサービスに応じることができそうです。
 ※国文、教育関係の主な雑誌は創刊から揃えています。
 ※近代文学関係の覆刻雑誌はすべて所蔵しています。
 ※稀覯書類は一切持っていませんが、至極当り前な基本的な資料でしたら、お問い合わせ下さい。

誕生した「私短協」大切にしたいと思います。合従策こそ弱者連合の生きる道と信じます。妄言多謝。

(片山 喜八郎)

〈事務局報告〉

52年度 第3回在京役員会記録

昭和52年12月14日 於：文教大学女子短大部

I 報告事項

- 1) 会報創刊号発行の件
- 2) 図書館雑誌へ私立短図協記事掲載の件
- 3) 全図連7団体関係の外部団体に、私立短図協結成のあいさつ状を会長名で送付した件
- 4) 近畿地区協議会53. 1. 21開催予定。会長も出席予定。
- 5) 12月21日開催される全図連へ安部氏出席。

II 協議事項

- 1) 研究・研修活動について
- 2) 会報について

第4回 在京役員会記録

昭和53年1月26日 於：東洋英和女学院短大

I 報告事項

- 1) 国立国会図書館長と図書館関係団体との懇談会が12月19日国立国会図書館で開かれ、もり会長・安部理事出席。
- 2) 全図連(12月21日；国立国会図書館)に安部常任理事出席。2月末正式発会式がもたれる。

II 協議事項

- 1) 研究・研修活動について
関東地区協議会第1回(3月下旬)開催の件
- 2) 昭和53年度全国図書館大会(青森)短大部会について
- 3) 「日本の図書館」付帯調査の件について
- 4) 国立国会図書館長と短大図書館長との懇談会開催について
- 5) 国立国会図書館「雑誌記事索引」に短大紀要類を採録するよう東短協「私立大学・私立短期大学紀要類論文題目索引」編集委員会と話し合い積極的に国会図書館に働きかける件について

第5回 在京役員会記録

昭和53年2月20日 於：青葉学園短大

I 報告事項

- 1) 名簿及び役員会記録の訂正及び追加の件
- 2) 幹事一覧表作成の件
- 3) 会報配布の件

4) 近畿地区協議会開催の件

II 協議事項

- 1) 関東地区協議会開催について(53. 3. 28)

第6回 在京役員会記録

昭和53年3月17日 於：青葉学園短大

I 報告事項

- 1) 岡野理事辞任の件
- 2) 関東地区協議会講演会の講師の件

II 協議事項

- 1) 関東地区協議会の役割分担について
- 2) 非加盟校参加の取扱いについて
- 3) 近畿地区協議会(3. 24)に安部常任理事出席の件について

53年度 第1回在京役員会記録

昭和53年4月24日 於：フェリス女学院短大

I 報告事項

- 1) 会報第2号発行の件
- 2) 近畿地区第1回研修懇談会に関する件
- 3) 関東地区第1回協議会に関する件

II 協議事項

- 1) 経理全般に関する件について
- 2) 名簿作成に関する件について
- 3) 全国理事会開催に関する件

第2回 在京役員会記録

昭和53年5月15日 於：青葉学園短大

I 報告事項

- 1) 事務局報告
- 2) 会報第2号原稿の件
- 3) JLA「日本の図書館」付帯調査の視聴覚教育の件

II 協議事項

- 1) 規約一部改正について
- 2) 全国理事会開催の運営に関して
- 3) JLA全国図書館大会短大関係の運営の件
- 4) 新役員(理事追認の件)について

第3回 在京役員会記録

昭和53年6月12日 於：東京女子大学短期大学部

I 報告事項

- 1) その後の加盟状況
- 2) JLA短大部会幹事の件

II 協議事項

- 1) 総会運営の件—9月に再確認、役割分担など行う。
- 2) 東北地区理事後任の件—中村泰正氏(山形女子短大図書館副館長)推薦あり、承認。
- 3) 中部地区からの提案—地区協議会通則並に中部地区図書館協議会規程案の件
- 4) 中・四国地区からの提案—関東私立短期大学協会発行「私立短期大学の学内諸規則集第5集」について
- 5) 地区活動費交付の件
- 6) 研究活動の件—実態調査・名簿作成について、現在

その調査項目の具体的検討を行っている。

- 7) 会報の件—第2号を6月中旬に発行する予定。
- 8) 昭和53年度会費請求の件—会報2号に同封。

〈会勢現況〉 53. 6. 12 現在

北海道	10(1)	中部	10(0)
東北	9(0)	近畿	29(1)
関東	20(1)	中国・四国	12(1)
東京	24(1)	九州	17(0)
計	131館(5)	()内は会費未納館	

〈会員校の声〉 第2回

仙台市の中心に近い陸奥国分寺跡に薬師堂が建立され、その一週に、仏教主義を特徴とする本学園がある。「あやめ草、足に結ばんわらじの緒」と芭蕉が詠んだ句碑の傍には、その歴史を刻む老公孫樹の緑が輝いて、新校舎の3階にある我が図書館に眩しく映る。学生数470名(国文・被服・保育の3科)蔵書数約2万冊、開架式という環境の中で、教授兼館長1名、司書2名が毎日、追われるような忙しさである。常々、利用者の納得がいくような整理や奉仕が出来るように、何とか研鑽の場がほしいと考えていたところに、昨年11月、仙台白百合短期大学図書館長の宮城先生の呼びかけで、東北地区第1回の集りが開かれたことは、前回会報の活動報告で周知の通りです。何かと交流の少ない東北地方の私達にとっては、宮城、山形、福島3県から14人の出席があったことは嬉しいことであり意義深いことでした。初めての顔あわせということで、特にテーマを決めてはいませんでした、各館の実情交換に始まり、規模も似たりよったりで大差ないし、同じような問題をかかえているという安心感から次々と話題が出て、お互いに仲間どうしという感じで気持ちが通じあったような気がしました。反面、《今後の集りはいつにするか、出られる曜日と時間について》等を具体的に考える段階になると、年に1~2回、日帰り出来るところなら出席可能という声と共に、今回は日短協の図書館担当者研修会がないから来られたが、どちらかを選ぶとすれば全国組織の日短協を優先したいという意見には、何かしら見逃せない壁にぶつかっただけの不安を感じたのは、私だけだったのでしょうか。

折から、この5月半ば、短大情報が届き、今年は日短協の図書館担当者研修会が、松山市で開催される予定のことを知り、一会員として複雑な心境である。何故ならば、今、図書館に勤めて10年目の自分を顧みると、司書講習を受けた以外の唯一の研修の場は、日短協の図書

館担当者研修会であったような気がするからです。分科会などでどうにもならない実情を相談したとき、貴重など意見を下さった委員の先生方、私立短期大学協会の中原事務局長の心強い励しのお言葉、素晴らしい研究発表をなさった司書の方たち、そして何よりも、全国の図書館に働く仲間と討議して、3年がかりで図書館改善要項の改正に取り組んだ情熱と感激を否定出来ないからです。

先の、創立総会議事録の説明欄に「日短協図書館研究委員会とは別組織なので、今後については我々が自主的に決定していき、その活動内容が存在を示すことになろう」と述べてありましたが、まさに今、その魅力ある存在を問われる時が来たという感じがします。

例えば、私立短大図書館協議会の組織でなければ解決出来ない問題とか、各地区協議会だからこそ、とりあげられる問題とか、まず身近な問題から、遠慮なく話あえる機会を早急に設けられるところに特色を持ちたいものである。その点、前回会報に報告された九州地区の懇談会記録事項は、未熟な私にとって興味ある問題点ばかりでした。東北地区は残念ながらまだ1回の集りしか設けていないけれども、これからは、各館が積極的に問題を提供し、お互いに意見を出しあって勉強する機会を作り、資料によっては得られない理解を深めたいと思います。そして第2回の東北地区会には是非とも、青森、秋田、岩手の3県の皆さまにも出席していただけることを願いつつ、ひいてはこの私立短期大学図書館協議会が、より良い方向に活動、発展するよう期待致します。

最後に恐縮ながら、共働きの私には現在、小学生と保育園児の2児があり、子供たちに対して、図書館の仕事をしていて本当に良かったと、誇りと責任を持てるような母親になりたいと考えています。全国のママさん司書の方、これからも一生懸命頑張ろうではありませんか。

高城 弘子(聖和学園短期大学図書館)

私立短期大学図書館協議会新加盟館（創刊号名簿追加）

昭和53年6月12日現在

短期大学図書館名	〒	住 所	連絡責任職・氏名
＜北海道＞			
函館大谷女子短大	041	函館市本通町51	事務次長 鈴木 猛
＜東北＞			
祇園寺学園短大	989-61	宮城県古川市福沼字御蔵西33	事務長 佐々木 淑郎
三島学園女子短大	980	宮城県泉市上谷刈字東伐生14	司書 中須賀 千枝
＜関東＞			
日本体育大学女子短大	158	東京都世田谷区深沢7-1-1	事務長 河井 弘志
共立女子大学短大	101	東京都千代田区一ツ橋2-2-1	図書課長 宮島 敬久
学習院女子短大	162	東京都新宿区戸山町43	中山 高二
日本赤十字中央女子短大	150	東京都渋谷区広尾4-1-3	司書補 吉川 龍子
昭和音楽短大	243	神奈川県厚木市関口808	司書 山田 文
小田原女子短大	250	神奈川県小田原市城山4-5-1	司書 正木 千鶴子
＜中部＞			
金沢女子短大	920	金沢市出羽町2-1	閲覧係長 永田 貞子
＜近畿＞			
大阪女子学園短大	543	大阪市天王寺区生玉寺町8-5	司書 坂上 恵子
被昇天女子短大	562	大阪府箕面市如意谷1	図書館長 八木 茂美
京都外国語短大	615	京都市右京区西院笠目町6	図書課長 吉村 善太郎
＜中国・四国＞			
大下学園女子短大	731-01	広島市祇園町南下安394	事務長 水岡 信彦
広島文化女子短大	731-01	広島市祇園町長束174-170	司書 明賀 由里子
梅光女学院大学短大	751	山口県下関市向洋町1-1-1	司書 寺本 由紀
＜九州＞			
熊本音楽短大	861-32	熊本県上益城郡御船町滝川1658	司書 福永 順子
鹿児島短大	890	鹿児島市永吉町450	事務長 常園 俊男

＜加盟館名簿（創刊号）の訂正・変更＞

- 関東地区 北陸学院短期大学：「関東地区」から「中部地区」へ
- 中部地区 高山短期大学：連絡責任者「古矢多美子」→「中西まり子」
- 近畿地区 相愛女子短期大学：連絡責任者「主任司書 木村 靖」→「田守チヨノ」
常盤会短期大学：連絡責任者「館長 桑原正二」→「松井玲子」
大手前女子短期大学：連絡責任者「館長 大植茂雄」→「司書 川澄 和」
- 九州地区 扇城学園中津女子短期大学：連絡責任者を「図書館長 堀 美則」へ

※以後の訂正・変更は、近く発行される「私立短図協加盟館総覧」（仮称）にて行ないますので御了承下さい。

会 費 納 入 の お 願 い

私立短図協加盟館各位におかれましては、昭和53年度会費を下記の要領で御納め下さるようお願いいたします。尚、払込みは直接事務局宛に現金書留又は銀行口座振込でお願いします。

払込先・事務局：郵便番号181 東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学部図書館内 私立短期大学図書館協議会事務局

払込口座：富士銀行吉祥寺支店 普通預金口座246-889887 私立短期大学図書館協議会

53年度会費：3,000円

払込期限：9月末日

※特にお申し出のない場合は、経費節減のため、領収証の発行をお許し願います。

事務局通信

<アンケート調査について>

ただ今、事務局では「私立短期大学図書館協議会 全国加盟館総覧」（仮称）の発行を計画しております。組織・館則・諸規程・予算・蔵書・整理関係・奉仕関係等なるべく詳しい情報を載せ、加盟館相互の協力を役立てたいと考えています。具体的な調査方法・項目については、研究活動担当理事を中心に検討中ですが、近々各館へアンケート調査を実施することになると思います。その節はよろしく御協力の程お願いいたします。

<私立短期大学図書館協議会総会>

日時：10月12日（木）午後1時～ 会場：青森火災共済会館
内容：講演及び総会

<全国図書館大会>

期日：10月11～13日 場所：青森市

<日本図書館協会短大部会>

期日：10月12日（木）午前 会場：青森火災共済会館
テーマ：短大図書館の利用教育

<日本私立短期大学協会・図書館担当者研修会>

期日：8月2～5日 場所：松山市

<東京都私立短期大学協会・司書実務研修会>

期日：7月3～4日 会場：私学会館

<私立短期大学図書館協議会役員>

会長 もりきよし（青葉学園短大）

会長推薦理事

常任理事 安部 壘 巳（東京女子大学短大部）
（事務総括、会計、渉外担当）

理事

（連絡、広報、記録担当）

” 芝原 翠（東洋英和女学院短大）

（研究活動担当）

” 菅原 春雄（文教大学女子短大部）

（会報編集担当）

地方選出理事 坂本 龍三（北海道武蔵女子短大）

宮城 清（仙台白百合短大）

片山喜八郎（国学院大学栃木短大）

梶田 一（愛知淑徳短大）

前川 和子（大谷女子短大）

川崎 文策（鈴峯女子短大）

村上 博子（西南女学院短大）

監査

柴田さち子（立教女学院短大）

幹事

森 康子（青葉学園短大）会長校

渡辺 敏一（東京女子大学短大部）事務局

青木 忠洋（文教大学女子短大部）会報校

網本 正巳（調布学園女子短大）広報校

杉山 敏子（フェリス女学院短大）研究校

編集後記

会報第2号をお届けいたします。本協議会の運営も漸く軌道にのりはじめ、各地区で積極的な活動が行なわれるようになってきました。これまで、各館の抱える問題をおつけ合い、解決の糸口を探る場が余りにも少なかったことを考えますと、本協議会の発足はむしろ遅きに失したと言ってもよいのではないのでしょうか。その意味では、現在計画中の「加盟館総覧」にも大きな期待が寄せられます。これによって各館の情報交換が盛んになり、相互協力の輪が一層広がって行くことを願って、皆様の御協力をお願いいたします。

発行所 私立短期大学図書館協議会 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1
東京女子大学短期大学部図書館内 Tel: 0422-45-4145